

2013年8月29日 平成25年度障害者虐待防止・権利擁護指導者研修

事実確認とエンパワメント

# 司法面接という手法

立正大学心理臨床センター相談員

臨床心理士・福祉心理士 田中周子

北海道大学大学院 仲真紀子教授 資料引用・参考



# 話を聞くことの難しさ

## □ 問題点

- ≫ 面接の繰り返し

- ≫ 誘導・圧力

- ≫ 供述の変遷と精神的二次被害

## □ オープン質問の意義と司法面接

## □ どこまで詳細に聞く必要があるか

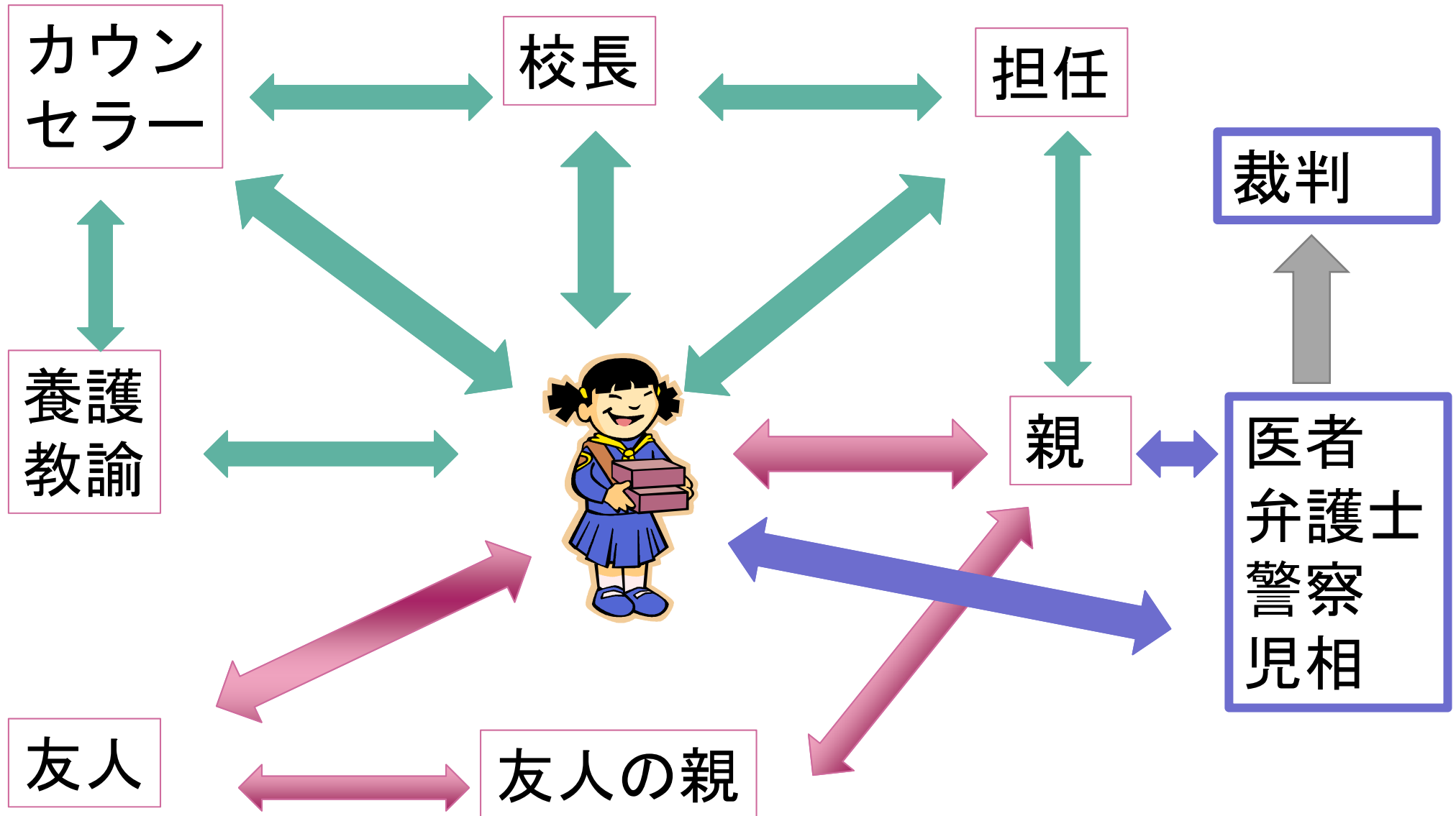
## □ いくつかの留意点

司法面接を障害者虐待防止手続  
に組み込むことが重要

- 効果的な面接を実施するために
- できる限りのことをするのは
- 面接する側の責任

- 傷つきやすい人々として、障害者と同様にとらえられている「子ども」に関する司法面接の研究や取り組みを参考に紹介する

## 典型的なプロセス：繰り返し尋ねられる（子どもの例）



供述の変遷と精神的二次被害

# 種々の圧力 (Ceci, 1995)

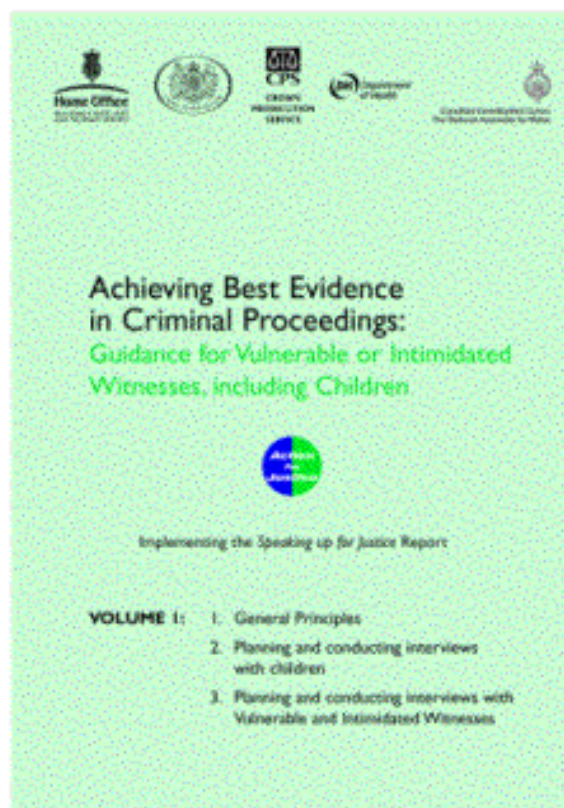
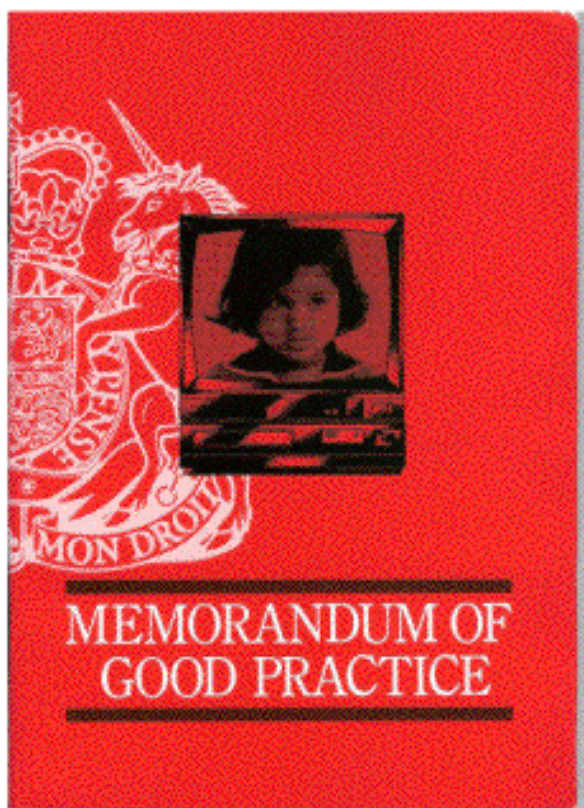
- 仮説の確認：仮説に基づく質問，仮説に合わない答えの無視。
- 重大化：「大事なことから答えてほしい」「答えてくれないと大変なことになる」
- 矮小化：「たいした問題ではないから答えてほしい」
- 補強証拠：「〇〇も言ってる」「証拠がある」
- 取り引き：「答えてくれたら，すぐに終わる」
- ステレオタイプ：「〇〇は悪いやつだ」
- 答えるまで尋ねる。繰り返し尋ねる。

# 子どもは「質問」をどう見ているか (Siegal)

- 聞かれたことは実際にあった事に違いない。
- 質問には「答え」がある。
- 大人は「答え」を知っている。
- 答えるまで質問される。
- 質問が終わるのは、正解を言ったからだ。
- 質問の繰り返しは、「前の答えは間違っている」ということだ。
- 答えると褒められる。
- 「知らない」「分からない」と言うと協力的でない、ばかだと思われる。

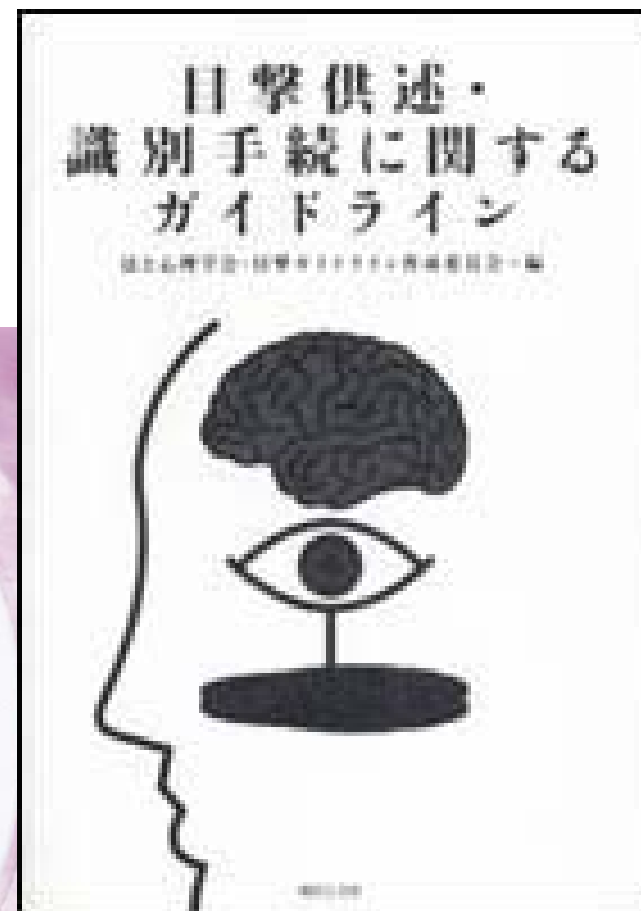
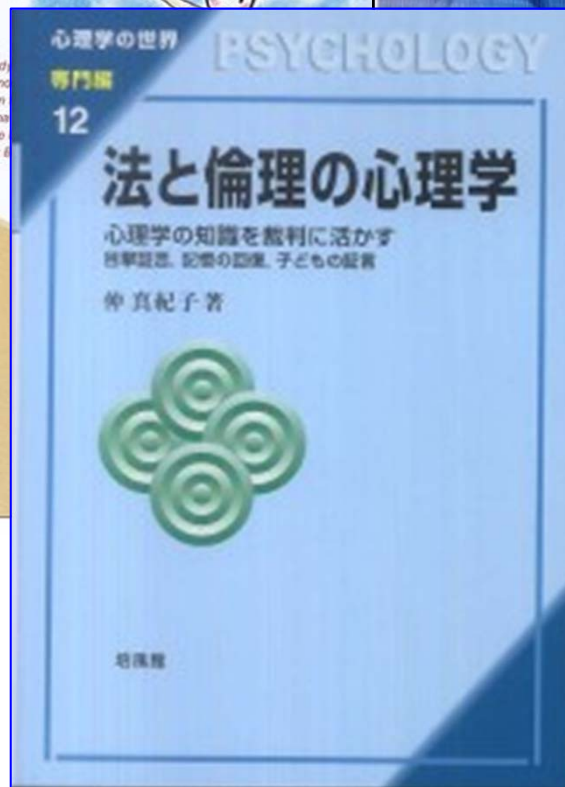
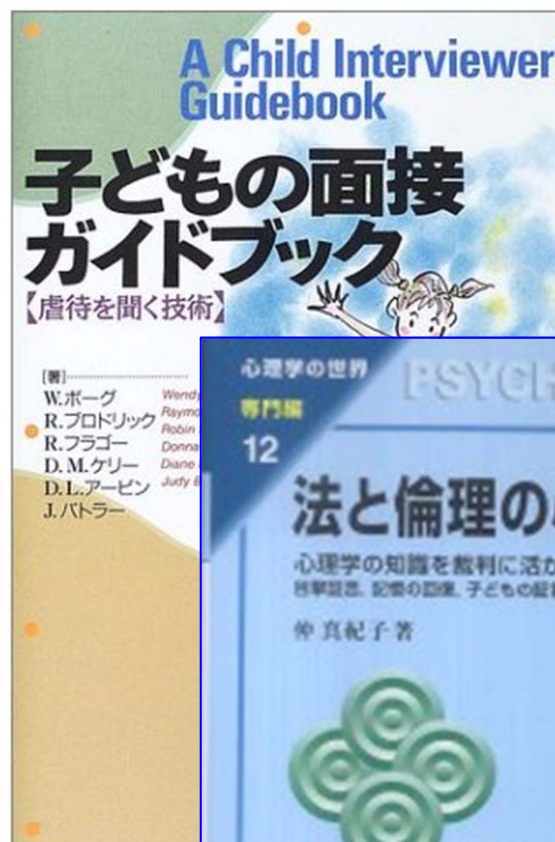


# 虐待事態への対応：司法面接



英国のガイドライン

# 類似のガイドライン・・・



# NICHDプロトコル・北大ガイドライン



Child Abuse & Neglect 31 (2007) 1201–1231

Child Abuse  
& Neglect

A structured forensic interview protocol improves the quality and informativeness of research

Received

## Abstract

**Objective:** To show how social tendencies can affect research.

**Method:** We review the structured NICHD Protocol enhances the quality of research.

**Results:** Controlled studies improve when interview is effective.

**Conclusions:** Use of structured interview improves victims by investigators.

© 2007 Elsevier Ltd.

**Keywords:** Forensic interview

\* Corresponding author. Tel.: +44 (0)145 213456; fax: +44 (0)145 213457; e-mail: a.b@bridge.ac.uk (A.B.).

0145-2134/\$ – see front matter  
doi:10.1016/j.chiabu.2007.05.021

1

北大司法面接ガイドライン（仲真紀子）2010. 10

## 第1 子どもの供述の特徴と課題

### 1. 子どもの供述の問題

#### （1）はじめに

犯罪を解決し、将来の犯罪を予防するには子どもからの事情聴取が重要である。しかし、子どもから情報を正確に聞き出すことは容易ではない。ここでは、子どもの供述の信用性を下げるいくつかの要因について説明する。一般的な認知発達、特に被暗示性等の子どもの側の問題、面接までの時間や面接者、質問の質など

- 情報収集アプローチの一般的な形式
- 構造化されており，比較的簡便
- フィールド研究，実験室研究が多い
- 米，英，イスラエル，北欧，オセアニア，韓国，日本等で使用・情報交換の機会が多い
- 障害をもつ大人，被疑少年，障害をもつ被疑者等にも適用

## 司法面接の目的

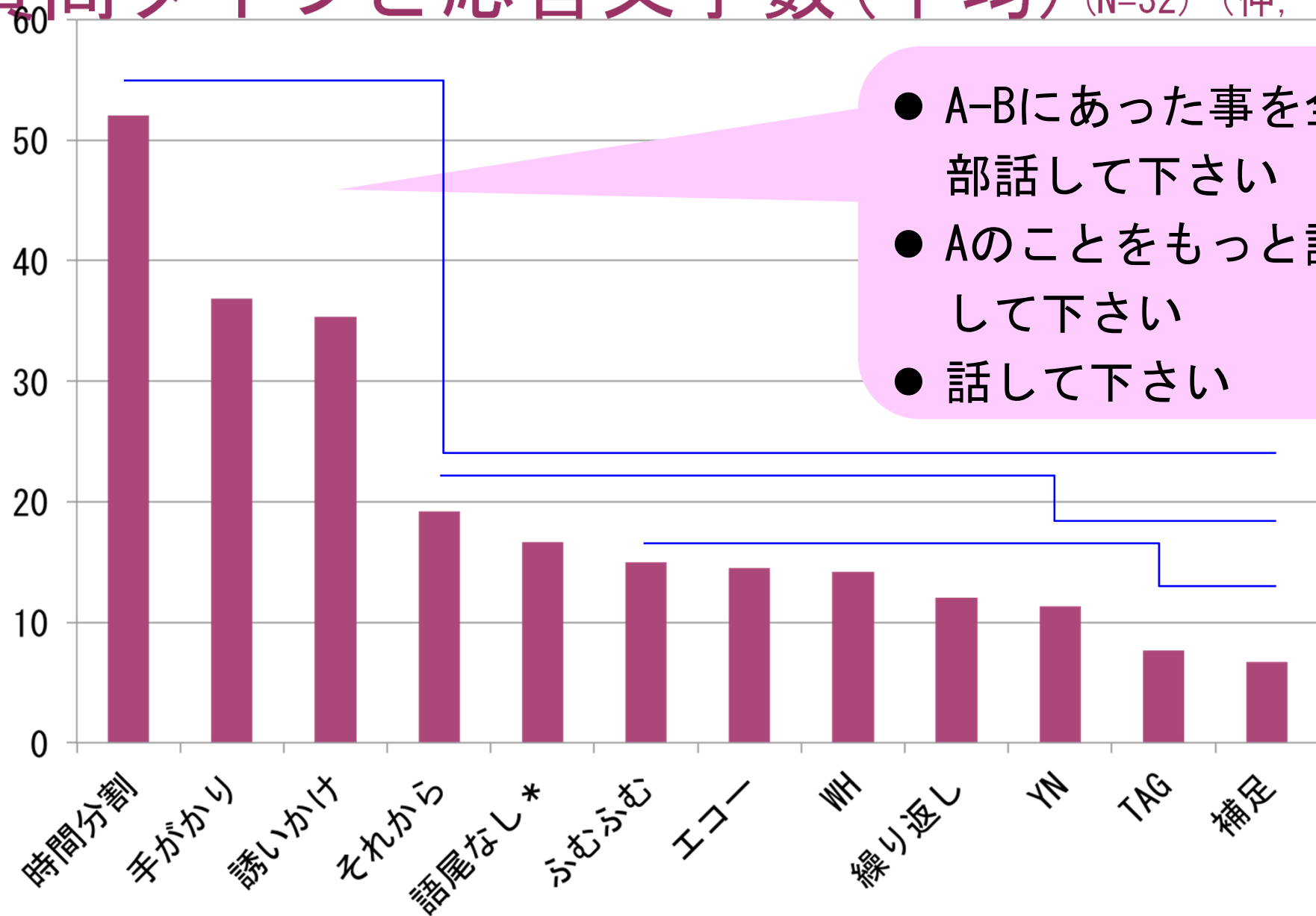
- 早い時期に、自由報告を重視した面接を1度だけ行い、ビデオで録画する。
- 必要な情報を客観的に聴取する/カウンセリングではない。
- 供述の変遷と二次被害を防ぐ。



# 司法面接の要

- 面接者から情報を出さない：被面接者の「言葉」で聞く。
- 被面接者の言葉を解釈しない：被面接者の「言葉」で聞く。
- コメント，評価しない：特に出来事の内容は
- 8割がオープン質問になるよう目指す。
  - » ①誘いかけ：何があったか話してください
  - » ②時間の分割：最初から終わりまで／○～△まで全部話してください
  - » ③手がかり質問：さっき言ってた□□についてもっと話してください
  - » ④それから質問：そして，それで，あとは
  - » ⑤ふむ，ふむ（⑥エコーイング）

# 質問タイプと応答文字数(平均) (N=32) (仲, 2011)



項目	司法面接（事実確認）	福祉的手法
時間	初期の開示からできるだけ早期に。周囲は何度も根掘り葉掘り尋ねない。	福祉的観点から必要が生じた時・本人や家族・関係者の求めがあった時
面接室	暖かいが，簡素な面接室	家庭・居室などの生活場面～個別相談室・グループ室
面接者の要件	司法面接の訓練を受けた人。日常ケアする人は担当しない	福祉機関の担当職員・協働する連携機関職員
背景知識	認知・発達心理学，福祉学，法と心理。 主に記憶・コミュニケーション	社会福祉学，障害学，リハビリテーション学，臨床心理学，保健，法，など
面接者の態度	暖かいが，中立，たんたんとしている，面接者は意見を言わない，誘導しないよう細心の注意を払う	受容的，共感，協力，協調，情報提供，対立する意見を述べる場合もある，

項目	司法面接（事実確認）	福祉的手法
面接の方法	手続きが決まっている。詳細に自由報告してもらう。日時・場所・人・出来事についても自分の言葉で話してもらう。	ソーシャルワーク・ケアワーク・各種心理療法
面接者の発言	情報提供や誘導をせず、オープン質問を主体にプロトコルで決められた質問を用いる。	カウンセリング。面接者は時に情報提供・提案をし、方向づける。
扱う情報	出来事のみ。被面接者が記憶していること。変遷しやすい。	生活習慣，主観的な体験，困り感，出来事，目標，健康，経済，援助者や家族との関係など多岐にわたる
ファンタジー	扱わない	参考にする
面接回数とタイミング	原則として1回。福祉と協働しつつ医療的検診の後・心理療法の前	複数回，随時必要に応じて
記録方法	面接をすべて録画，録音	面接終了後，筆記も可 <sup>16</sup>



- お家には誰がいるの？
- お母さん
- お母さんだけ？ ←一般
- ううん。
- お父さんもいるの？
- うん。
- お父さん，何か嫌なことするのかな
- うん
- どんなことするの？
- 叩いたりする。
- そうか。どこ触るの？
- . . .
- そのときお母さんはどこにいるの？
- いない。

- お家にいる人のことお話ししてください ←目標
- お母さん
- それから
- お父さん
- それから
- それだけ
- では，お父さんのことお話ししてください
- お父さんは，時々嫌なことをする
- うん，それで
- 叩いたりする。それから怒鳴ったりもする。お母さんがいないときはいつもお風呂で…

犯罪から子どもを守る

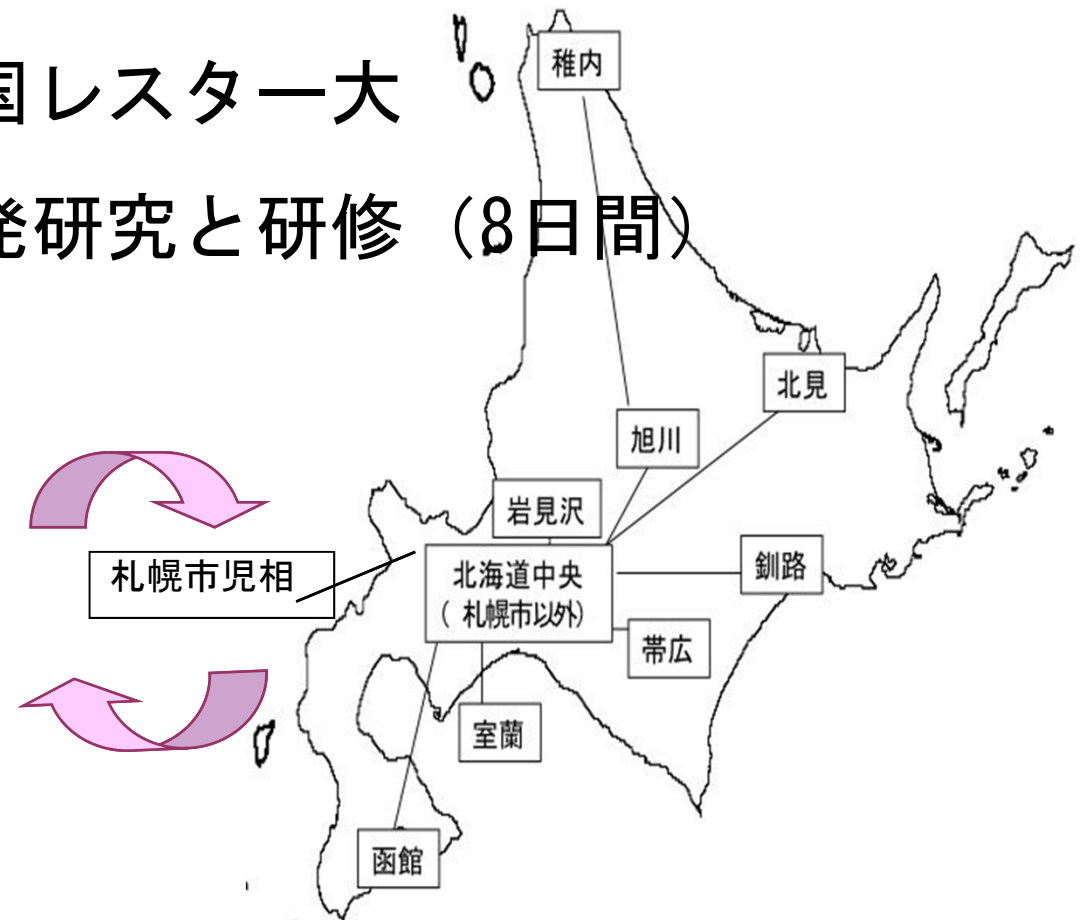
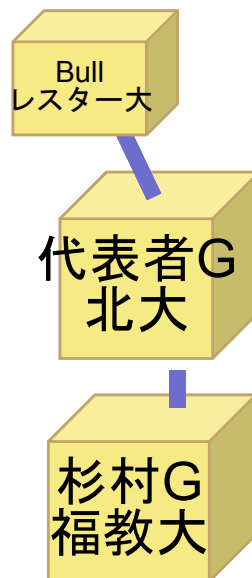


司法面接法の開発と訓練

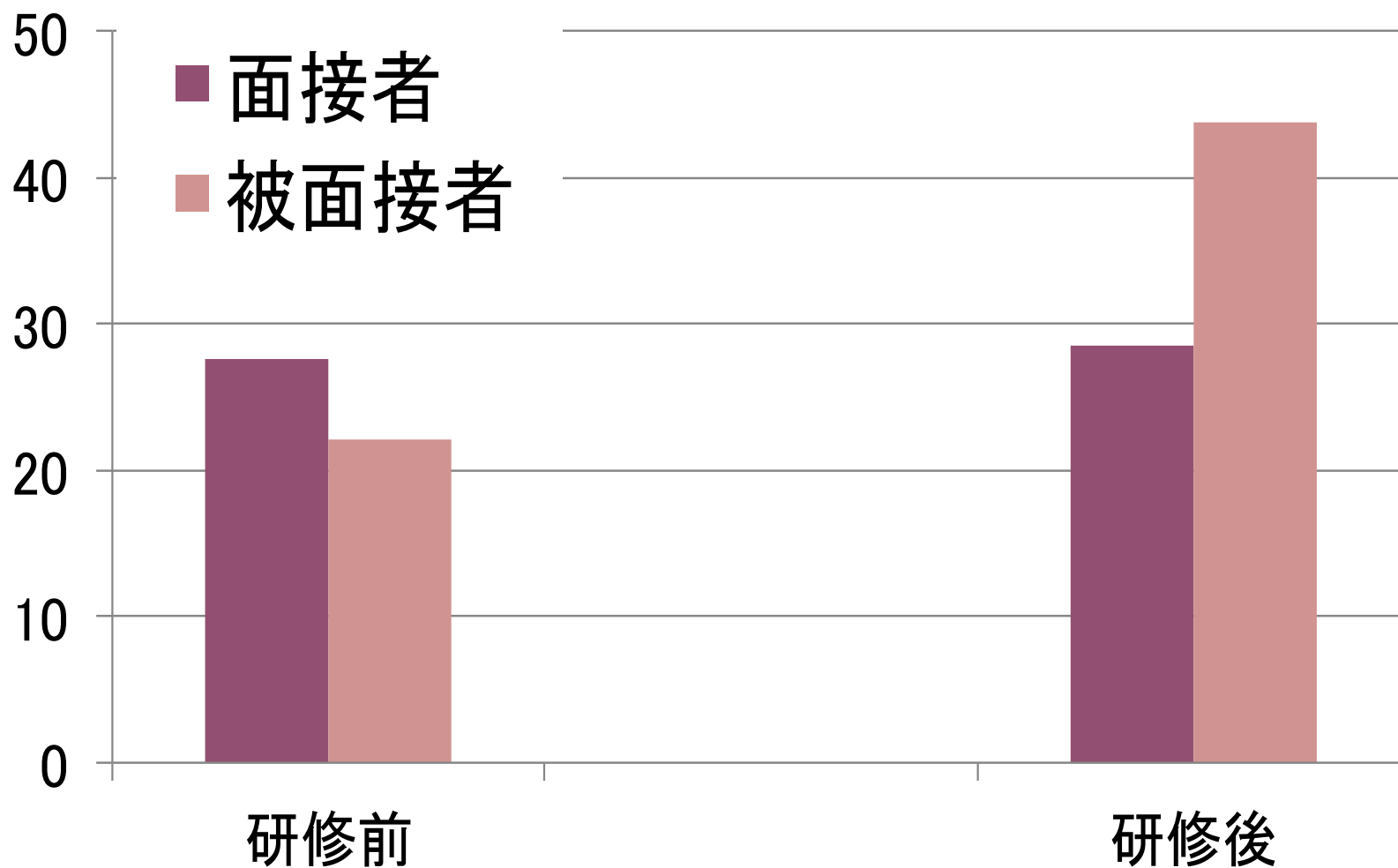
研究開発領域「犯罪からの子どもの安全」

# JST：犯罪から子どもを守る 司法面接法の開発と訓練

- 道8児相と札幌市児相
- 福岡教育大
- 英国レスター大
- 開発研究と研修（8日間）



## 研修の効果：1発話あたりの文字数<sup>(仲, 2011)</sup>



本題での報告で，自由報告が増える。

# 自由報告の体験

【方法】3分間自由報告を求めて、「質問をしない」練習，「自由報告で話す」練習をする。

- » 「今日家を出てからここに来るまでのこと／最近した買い物 について、お話ししてください」
- » オープン質問で聞く（①お話しして，②時間の分割，③さっき言ってた，④そして・それから）
- » ⑤うん，うん

【面接者】

- » 十分な間をとる（思い出すのには時間が必要）
- » コメントをしない，勝手に解釈しない

【被面接者】

自分はどのようなときに話しやすいか体験する

## 面接の留意点

### □ 面接にあたって

- ≫ 計画を立てる。いきあたりばったりで面接しない。
- ≫ 面接者は、オープン質問を多用するよう準備する

### □ 特性を知る（例えば）

- ≫ 間をとる。ゆっくり話す。文字を利用。
- ≫ 大声に気をつける（発達障害者は大声が苦手）。
- ≫ 独自の行動を許す（手をふる、貧乏ゆすり等）。
- ≫ 時間や動機については、文脈のなかで情報を集め、こちらが判断する。

### □ 誘導とならないように

- ≫ 面接者が情報提供をしない。
- ≫ 選ばせない、聞き方を変える。
- ≫ 話さない場合（話せない場合）追求・威圧しない。
- ≫ 再現させない。

## 課題

- ①司法面接実施前から
  - ・ 通告の意思決定までに重ねて尋ねてしまうことから撤回がおきることがある
  - → 疑いのまま通告してよいシステムにする
  - ・ 意識状態の変化について、まじめな態度でないという印象を与えることがある
  - → 笑い・眠気などは、解離症状の可能性も考慮
- ②司法面接自体を通して
  - ・ 司法面接を組み込んだシステムが構築されていない。一回でよいシステムになっていない
  - → 司法面接を取り入れた多機関協働の制度構築へ

## 「初期の開示の現場」での留意点

- 会話をそのまま記録してもらう。録音，録画をする。携帯でのムービーも可。
  - 「誰が」「どうした」で十分。
  - こちらから情報を出さない（根掘り葉掘り聞かない）。
  - 繰り返し聞かない。複数が尋ねない。
  - 矛盾を追求しない。
  - 情報収集に徹し，あとで判断する。
  - そのときの状況（発覚・通告の経緯＝誰が，どうした）を、会話のまま正確に記録する
- ➡ 疑いのまま通告<sup>3</sup>

- 面接において (一部) 英国自閉症協会：「司法制度と自閉症」から仲教授作成
- 明確，簡潔，単純な言葉を用いる。短い文を用いる。
- 発話では被面接者の名前を入れる。そうすることで，ASD児・者は自分が話しかけられているのだと分かるだろう。
- 曖昧さをさけ，具体的に尋ねる。
- ASDは尋ねられた質問を繰り返す（エコーイングする）場合があることに配慮する。
- 選択肢型の質問においては，ASDは，最初または後の単語を言うことがある。



- 被面接者が情報処理するための時間を十分にとりなさい。
- 面接者の表情，手の動き（ジェスチャー）は最小限にすること。
- 視覚的に示すのも有効である
- 頻繁に休憩をとる必要があるかもしれない。何分休憩をとるか，その後どうするのかを予め知らせること。発話の繰り返し，手をひらひらさせる等の繰り返し行動，自傷行為（手をかむ），叫ぶ，その他の身体的行動は，不安や休憩が必要だというサインである。

# ニューズレター・通信・面接支援



## 司法面接支援室

支援室通信(年間3-4回発行)をご希望の方は、HPののメルフォームでお知らせください！

<http://child.let.hokudai.ac.jp/>



支援室通信Vol.6 (2010.8月発行)

支援室通信Vol.5 (2010.7月発行)

支援室通信Vol.4 (2010.4月発行)

支援室通信Vol.3 (2010.2月発行)

支援室通信Vol.2 (2009.12月発行)

支援室通信Vol.1 (2009.10月発行)

## 参考文献

- アルドリッジ・ウッド（著）仲真紀子（編訳）（2004）．子どもの面接法：司法における子どものケア・ガイド．北大路書房．
- 英国内務省・保健省（編）仲真紀子・田中周子（訳）（2007）．子どもの司法面接：ビデオ録画面接ガイドライン．誠信書房
- ブル, R. ・ クック, C. ・ ハッチャー, R. ・ ウッドハム, J. ・ ビルビー, C. ・ グラント, T. （著）仲真紀子（監訳）（2010）．犯罪心理学－ビギナーズガイド：世界の捜査, 裁判, 矯正の現場から．有斐閣．
- Fisher, R. P., & Geiselman, R. E. （1992）．Memory-enhancing techniques for investigative interviewing: The Cognitive Interview. Springfield: Charles Thomas.
- Hershkowitz, I. Orbach, Y., Lamb, M. E., Sternberg, K. J., & Horowitz, D. （2006）．Dynamics of forensic interviews with suspected abuse victims who do not disclose abuse. Child Abuse & Neglect, 30, 753-769.
- Home Office （2000）．Achieving the best evidence in criminal proceedings: Guidance for vulnerable and intimidated witnesses, including children. Home Office Communication Directorate.
- 法と心理学会ガイドライン作成委員会（編）（2005）．目撃供述・識別手続に関するガイドライン．現代人文社．
- Lamb, M. E., Orbach, Y., Hershkowitz, I., Esplin, P. W., & Horowitz, D. （2007） A structured forensic interview protocol improves the quality and informativeness of investigative interviews with children: A review of research using the NICHD Investigative Interview Protocol. Child Abuse and Neglect, 31, 1201-1231.
- 仲真紀子（2005）．子どもは出来事をどのように記憶し想起するか．内田伸子（編）心理学-こころの不思議を解き明かす．光生館．Pp.131-159.
- 仲真紀子・上宮愛（2005）．子どもの証言能力と証言を支える要因．心理学評論, 48, 343-361.
- 仲真紀子（2005）．子どもの面接-法廷での「弁護士言葉」の分析-．法と心理, 1, 80-92.
- 仲真紀子（2009）．司法面接：事実焦点を当てた面接法の概要と背景．ケース研究, 299, 3-34. .
- 仲真紀子（2011）．法と倫理の心理学－心理学の知識を裁判に活かす：目撃証言, 記憶の回復, 子どもの証言．培風館．
- Poole, D. A., & Lamb, M. E. （1998）．Investigative interviews of children: A guide for helping professionals. Washington, D.C.: American Psychological Association.
- 越智啓太（1998）．目撃者に対するインタビュー手法-認知インタビュー研究の動向-．犯罪心理学研究, 36, 49-66.
- ボーグ, W. ・ フラゴー, R. ・ アービン, D.L. ・ ブロドリック, R. ・ ケリー, D.M. （著）藤川洋子・小沢真嗣（訳）（2003）．子どもの面接ガイドブック-虐待を聞く技術．日本評論社．
- Walker, A. G. (1993). Questioning Young Children in Court: A Linguistic Case Study. Law and Human Behavior, 17(1), 59-81.